

亡母の3年祭に想う

労働者委員 東 健一郎

みなさんは「榊（さかき）」という植物をご存じでしょうか。

緑の葉が茂った枝を束ねて神棚に供えたり、神社で参拝者が神前にささげる玉串（たまぐし）に使われたりする植物で名前の由来には、神と人間の境界にある境木（さかき）を語源とする説があるといわれます。

私には神道において、特別な神事を行う際に使用されるものという程度の認識しかなく、自宅で先祖の祭りごとを行うときにこれを準備するとなると価格が高く、田舎だと親戚が多いので「参加者分の玉串（たまぐし）を準備するのにかなりの金額になるなあ」と罰当たりなことを思っていました。

ところが、先日スーパーの花屋さんでこの「榊（さかき）」が大変安く売られているのを見つけ、日ごろ購入するものとの価格差に驚き少し調べてみました。

すると、現在日本で流通している「榊（さかき）」の8割以上が中国産なのだそうで、私が今回見つけたものは中国産のようです。

なぜ日本の神事に使う「榊（さかき）」が中国産なのか。

背景の一つが林業の衰退だという、国産の杉やヒノキが売れていたときは、森林の手入れの一環として下に自生しているサカキを切り出し、販売していた。だが輸入木材に押されて林業の収益性が下がり、森林を手入れする機会が減るのに伴い、サカキの供給も細っていった。林業に携わる人が高齢化し、作業をする人が減ったことがこうした流れに拍車をかけた。そこに登場したのが中国産だ。今から30年ほど前に日本の業者が中国でサカキの栽培や加工の仕方を教え、日本向けに輸出し始めたということらしい。

ただし中国産は出荷から流通まで日数がかかるため「日持ち」が悪く、高価でも品質の良い日本産が好まれる傾向があり、山に自生するものから「栽培して出荷」へと日本でも各地で生産されるようになってきているようだ。

栽培できるなら実家の小さな畑の隅にでも植えておけば助かるなあ、苗木はどこで入手すればいいのかな、なんて思っていたら、鹿児島県の森林経営課特用林産係が「枝物（さかき、ひさかき、しきみ）生産者養成講座」を開催するらしいと聞きつけ、「生産者」になるつもりはなかったもののリタイア後の楽しみになるかと早速申し込み夫婦で受講しています。

今年8月に母の3年祭を迎えるにあたり「榊（さかき）」のことを考えていたらいろんな発見があり、これを機会に鹿児島県がいろいろな講座や研修会を開催していることを知りました。「枝物生産」に限らず、必要な知識を得るため参加できるものを探したいと思っています。